

吟道をして永遠の命あらしむ

【都留市詩吟連盟】

都留市詩吟連盟には、山梨岳桜会、都留岳風会、山梨吟友会、鶴友吟詠会、鎌真会、吟神謡城会の六つの会が所属しています。

連盟の行事として、年一回、文化祭協賛の吟詠大会を十一月に開催し、二〇〇余名の会員が日々研鑽した成果を発表しています。発表の内容は、漢詩、和歌、俳句、新体詩の吟詠と漢詩に合わせた剣舞、詩舞の披露などです。本年も第二十六回大会として、十一月十四日うぐいすホールにおいて開催することになっています。

連盟を結成して二十六年幾多の曲折を経て、現在は会員も増加し組織の面でも充実し、毎回の吟詠大会も立派な看板を掲げ、金屏風を背にした素晴らしい大会を開催できるまでになっています。

また、他に年中行事の一つとして、都留遺族会並びに援護会が行う、都留市護国神社の元旦祭に参列し、護国神社にまつられている八〇〇余柱の英霊を慰めるために、奉納吟詠をしています。各会の活動も、それぞれに年間を通して審査大会、吟行会、春あるいは秋の吟道大会の開催。所属する日本詩吟学院や日本吟道学院開催の全国吟道大会に参加しています。また、特に今年は、都留岳風会が創立三十周年記念吟道大会を六月二十五日文化会館にて開催。山梨岳桜会が創立四十五周年記念吟道大会を九月十七日にアピオ都留にて開催することになっています。この大会には、県内外の吟友の所属する学院総本部の諸先生及び地元市長をはじめ市名士のご臨席を仰いで、会員相互の親睦はもとより他会派の人々との親睦を深めるとともに、生涯学習の一つとして詩吟を楽しく勉強する機会としています。

吟道は人の道を正し、人の心を豊かにし、人に生気を与え、人々に生きがいを感じさせ、また、地域社会の文化の振興に寄与しています。宗範木村岳風先生の遺訓「吟道をして永遠の命あらしむ」の言葉の通り、今こそ、この吟道に多くの人が共鳴し参加してくださることをお待ちしております。

問合せ先

山梨岳桜会	藤江 孝子	☎(45) 5772
山梨吟友会	奥秋与一郎	☎(43) 2929
都留岳風会	和智 昭次	☎(43) 5605
鶴友吟詠会	志村 武光	☎(43) 2744
謙真会	秦 富夫	☎(43) 5815
吟神謡城会	森田 寛	☎(43) 1444

第40回日本吟道全国大会



生涯学習通信 生涯学習推進会議調査・啓発部会

のびのび いきいき 生涯学習

生涯学習グループの紹介

現在、都留市内において各種団体に所属し、活動している学習グループや自主的に学習しているグループを紹介します。

伝統の韻(ひびき)

【都留尺八連盟】

都留尺八連盟が文協に加入したのは、昭和五十年秋と記憶しております。会員は少人数ですが、山梨竹心会、童門甲斐寿会、竹友会の三グループで部門を構成しています。三部門ともそれぞれ昭和二十年代に同志が集まり活動が続けております。

昭和二十三年谷村町大火のころ、寧の徳江先生社中と、谷村第一小、青藍幼稚園、円通保育園などで共演しました。昭和三十年ころには、現在の文協の前身ともいえる、文化団体の主催で旧谷村座に於いて、能の宝生、観世流、日本舞踊、洋楽アンサンブル、獅子舞など昼夜二回の発表会で演員の盛況を呈したのも遠い昔の思い出になりました。

「尺八を始めて何年くらいになりますか」と時折聞かれますが、終戦の翌年、昭和二十一年秋からで最早五十年以上にもなります。尺八は「首振り三年」といって難しい楽器と思われるのですが、二・三時間の練習で童謡などが吹けるようになります。三、四十年前から洋楽出身の作曲家が、邦楽作品を発表し、海外から大いに注目を集めました。都留「うぐいすホール」にも、九月三十日、ネブチューンというハワイ生まれの尺八演奏家が来る予定です。

古典本曲、三曲合奏、民謡、現代邦楽、ジャズやポップス、クラシック、様々なワールドミュージックとのセッションなど、きわめて広範囲なフィールドで、その音楽の可能性の追及が模索され続けています。健康的にも、複式呼吸、指先の運動はつきものです。お気軽にご入会をお待ちしています。

問合せ先

山梨尺八竹心会	堀内国男	☎(43) 8414
童門甲斐寿会	園田吉朗	☎(43) 8304
竹友会	川村大介	☎(43) 3138

